

文化論集第50号  
2017年3月

## 消 息

### ヤヌシュ・ブダ先生のご定年退職にあたって

私たちの敬愛するヤヌシュ・ブダ先生は2016年10月2日に満70歳をお迎えになり、2017年3月末をもって早稲田大学をご定年退職されることになりました。私はブダ先生より年齢はやや若いですが、同じ年に商学部専任教員として採用されたこともあり、なにかとお話する機会がありました。また横田信武学部長の下では一緒に教務主任を務め、助け合ってさまざまな問題に対応してきました。実際には、もっぱら私がさまざまな相談をし、ブダ先生が思慮深いアドバイスをくださるという形ではありましたが、同僚として、友人として二十数年過ごしてきましたので、大学の規程とは言え、ブダ先生がご退職なさるのは本当にさびしい限りです。

ブダ先生は1969年にロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS：School of Oriental and African Studies）を卒業なさいました。専攻は日本語で、日本仏教や漢文も学んでいらしたそうです。卒業後は、同研究学院独自の奨学金付きでMaster of Philosophyコースに進学されました。当初は鴨長明など日本の随筆の研究を希望されていましたが、途中で源実朝の『金槐和歌集』の研究に変更し、1972年、日本の文部省の国費留学生として来日、旧大阪外国語大学で半年、当時の東京教育大学で一年間、源実朝の研究に没頭されました。これが最初の来日の機会だったそうです。イギリスのご家族の事情で一度帰国されたあと、二度目の来日の機会となったのは、博士論文執筆の資料収集のための1976年でした。このときには奨学金がなかったこともあり、本田技研、松下電器、横浜ゴム等の企業の技術翻訳のほか、非常勤講師として大学での教育も経験され、その一つが大妻女子大学での英語の授業だったということです。

1977年に大妻女子大学から専任講師としてのポストを提供されたことをきっかけに、日本の大学教員としての生活が始まり、1987年には同大学の助教授に昇任されました。早稲田大学との最初のつながりは、1988年に法学部の非常勤講師をされたことに始まります。商学部でも1992年に非常勤講師をされ、1993年に助教授として採用されました。

その後1995年に教授に昇任されて現在に至っています。

商学部では、習熟度別の英語科目で上級、準上級のプレゼンテーション、スピーキング、ネゴシエーションなどの他、ビジネス・イングリッシュを、大学院商学研究科ではアカデミック・ライティング、ビジネス・ネゴシエーションを担当されています。日本語ネイティブではないかと思われるほどの日本語をお使いになるブダ先生ですが、授業では日本語はいっさい使わず、学生にもすべて英語を求めます。一度、授業を見学させてもらったことがあります。ブダ先生の徹底的な英語教授法のおかげで、学生たちが生き生きと英語を使っていたのが印象的でした。

ブダ先生の担当されてきた科目は、商学部の学生がまさに身につけておくべきビジネスに関わる英語であり、ブダ先生が商学部のビジネス・イングリッシュを支えてくださったと言っても過言ではありません。昨今は、英語で講義する専門科目の重要性が唱えられ、商学部でも年間20科目以上が提供されています。ブダ先生の担当科目は、英語科目ではありますが、ネイティブ・スピーカーが英語で提供してくれる専門科目のような位置づけと考えることができます。商学部、商学研究科の学生にとっては、ブダ先生の授業が大きな刺激となってきたことと思います。

私の研究領域は、広告論、マーケティング・コミュニケーションですが、これまで、研究面でしばしばブダ先生のお力を借りてきました。一つは、2013年度から2014年度にかけての産業経営研究所の研究プロジェクトで、英語で教える専門科目を英語教員以外が行うための教材を開発するというものでした。日本の広告活動を日本人以外の学生に紹介するための素材となるビデオやパワーポイントを作り、広告活動についての学生の理解を高めるとともに、教員の教育を支援することができないか、ということで行ったプロジェクト研究でした。結局、ビデオ素材は少ししか作れませんでした。ブダ先生のアドバイスがさまざまところで役立ちました。

もう一つは、アメリカ広告学会が2014年に発行した *Advertising Education around the World* という書籍です。この本は世界27カ国の広告研究者が、自国の広告教育の現状をまとめるもので、企画がスタートしたのは2008年でした。27カ国からボランティアのライターが募られ、原稿が少しずつ集まり、ということで、当初の予定より相当長がかかって出版にこぎ着けました。私も日本の広告教育に関してまとめるボランティアとして名乗り出たものの、書き終えたのは2010年でした。その後、正確な英語にするため、

ブダ先生には全面的にお世話になりました。ブダ先生が、私の記述の曖昧なところを逐一指摘していただき、内容を補完して的確な論文に仕上げてくださいましたこと、御礼を言っても言い尽くせません。エディターからの修正依頼はいっさいありませんでした。おかげで日本の広告教育、とくに早稲田大学の先輩たちが日本の広告教育にどう関わってきたかを、英語で世界に向けて紹介することが出来ました。

ブダ先生は、商学部内では、1998年9月からの大塚宗春学部長の時代に学生担当教務副主任、2006年9月からの横田信武学部長時代には入試担当教務主任をお務めになりました。堅実なお仕事振りはだれからも高く評価されていました。横田学部長の下で一緒に教務主任を務めたことは前にも述べましたが、ブダ先生の前任の入試担当教務主任は私でしたので、仕事の引き継ぎをスムーズに行うことが出来ました。ブダ先生は、さまざまな入試方法に関して疑問をもたれたところは積極的に研究し、独自の資料を作って丁寧に説明をしてくださいました。商学部の入学試験がおかしな方向に行かなかったのは、ブダ先生のご尽力のたまものであったと言えます。

学部運営委員会などの席では、ブダ先生は大きなお身体で、威厳に満ちた態度で静かに座っていらっしゃいます。同僚の発言を熱心に聞きながら、ところどころで、頷いたり、首を横に振ったりなさいます。ときに会議のルールを無視した発言が出ると、たしなめるような視線を送り、実際に注意をなさることもありました。私が学部長を務めていたとき、私の発言にブダ先生が頷いてくださると、とても心強く感じたものでした。まさに誠実で良識にあふれた研究者、教育者であるといえます。

その一方で、ブダ先生の別の側面についても少しご紹介しておきたいと思います。ブダ先生は研究室やご自宅で、いつでもコンピュータの前にいらっしゃるのではないかと、思うほど、メールを送るとすぐに返事をくださいます。インターネットをさまざまな面で活用されていて、ご自身のホームページでは講義概要、教科書、論文などを公開していらっしゃいます。それだけではありません。私たちの研究室のある11号館は旧11号館を解体して3年かけて建設されましたが、当時9号館にあったブダ先生の研究室から建築現場に向けてウェブカメラが据えられており、ブダ先生のホームページから観察することができるようになっていました。徐々に出来ていく11号館を私はときどきブダ先生のカメラで見っていました。さらに、ブダ先生はペンネームを使って、ミステリー小説を何冊か電子出版してもいらっしゃいます。これは、ブダ先生曰く電子出版自由化につい

での研究だということです。興味を持ったことはやってみないと気が済まない、少年のように好奇心旺盛なご性格と私は推測しています。

ロックやフォーク、映画についてもずいぶんお話しそうです。もっといろいろとお話を伺っておけばよかったと思うくらいです。日本の音楽雑誌のために、イギリスでのコンサートの写真を撮ったり、バンドのメンバーにインタビューしたりというご経験もあるそうです。映画は、ロマンスやミステリーがお好きということですが、好きな映画は何回も繰り返してご覧になるタイプらしいです。

大学を定年退職なさっても、好奇心強く、さまざまなことにチャレンジし、研究を続けていただきたいと強く思っています。そのためには、ご健康にくれぐれも留意なさってください。これまで商学部、商学研究科に賜ったご恩に心から感謝しております。

おわりに、ブダ先生の主要研究業績を記し、感謝の気持ちとさせていただきます。

## 著書

- 『商業英語クエスチョン・ボックス』（共著）大修館，1983年5月
- 『キーワード 555』（共著）グロービュー社，1984年4月
- 『A Checkbook for Business Conversation: ビジネス英会話チェックブック』（共著）南雲堂，1993年11月
- 『Cousin William 1: Essential Spoken English for Communication』（共編）成美堂，1995年1月
- 『Practical Listening: Facts and Figures on Japan』（編著）鶴見書店，1995年1月
- 『UK Kids: Communication Strategies』（共著）伸興通商，1995年12月
- 『A Checkbook for Business Writing』（共著）南雲堂，1996年12月
- 『Cousin William 2: Essential Spoken English for Communication』（共編）成美堂，1997年1月
- 『社交英文レター集』（共著）研究社，1997年12月
- 『Listening to Japan』鶴見書店，1998年1月
- 『地球コミュニケーション時代の最新英語雑学事典』（共編）集英社，1999年1月
- 『ビジネス英語活用辞典』（共編著）大修館，1999年7月

『最新！通じる英語』（共編）集英社，2000年11月

『Transactions: Real Business Conversations: ビジネス英会話入門』（共編著）南雲堂，  
2010年11月

『Personal Business Correspondence』Leanpub，2013年3月

## 論文

“The Literature of British India”『大妻文学部紀要』17号，1985年3月

“Rudyard Kipling’s ‘The Ballad of East and West’”『大妻文学部紀要』18号，1986年3月

“The Asian Community in Great Britain” *Ōtsuma Review*, No. 19, 1986年7月

“Electronic Network Communication”『大妻女子大学紀要－文系』23号，1991年3月

“Language Choice” *Ōtsuma Review*, No. 24, 1991年7月

“Language Shift in Australia and Canada”『大妻女子大学紀要－文系』24号，1992年3月

“Armageddon and the New Age” *Ōtsuma Review*, No. 25, 1992年7月

“The Formatting of Network Messages”『文化論集』4号，1994年5月

“Quotations in Network Messages”『文化論集』6号，1995年5月

“Guidelines for Network Communication”『早稲田大学産研シリーズ』28号，1996年3月

“Open-forum Communication on Computer Networks”『日本商業英語学会年報』55号，  
1996年5月

“Course Management Systems”『文化論集』28号，2006年3月

“Questions Generated by Japanese Students of English”『文化論集』37号，2010年9月

“Japan”（共著）In J. I. Richards & B. I. Ross (Eds.), *Advertising Education around the  
World*, American Academy of Advertising, 2014年

嶋村 和恵